

※学級の児童の実態や単元の特性に応じて、ここに示している手立てから必要と思われるものを選び、適宜応用しながらお使いください。
 ※同系統の手立ては、同じ記号で示し、より発展的と考えられる手立てについて、ダッシュ（「'」）を付けています。

手立て一覧表

	A（見通す）	B（自ら考える）	C（対話する）	D（振り返る）
単元前	<p>【年間を通して講じる手立て】</p> <p>a 語彙を豊かにするための取組を日常的かつ継続的に取り入れることで、考えの深まりを促す。 ・優れた表現や言葉を掲示物として蓄積、教科書巻末収録の語句を用いた説明、日々の3行日記等</p> <p>b 学校図書館などを利用することで、作者や筆者の多様な考えに触れさせ、考えの広がりや深まりを促す。 ・図鑑、科学的な読み物、事典、物語、雑誌、同一作者によるシリーズ作品、異なる書き手による同一テーマの新聞記事等</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【単元に応じて講じる手立て】</p> <p>c 当該単元に関わる領域のレディネスや、同系統の学習履歴を把握することで、指導上の留意点を明らかにする。 ・アンケート調査、事前小テスト</p> <p>d 当該単元に関わる基礎的知識や語彙、関連する話題について事前に児童へさりげなく提供することで、レディネスを調整する。</p>			
単元中毎時	<p>★ 本時で身に付ける力やその方法についてめあてを立てることで、本時の学習へ見通しをもてるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何を学ぶのか ・どのように学ぶのか ・何ができるようになるのか ・前の学習と関連付けられるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったこと ・できるようになったこと ・参考になった友達の考え ・次の学習で取り組みたいこと 	<p>★ 本時の終わりに視点を与えた上で振り返りを記述させることで、次時の学習へ見通しをもてるようにする。</p>
<p>※「☆」「★」（めあて・振り返り）は、どの単元においても、毎時取り入れていただきたい手立てです。</p>				
一次（つかむ）	<p>e 児童の身近な話題や興味を踏まえて言語活動を設定することで、意欲を喚起する。</p> <p>f 学習課題で、何をどのようにすれば、どのような力が身に付くのかを児童と共通理解しておくことで、学習の目的や必要性を実感できるようにする。</p> <p>g 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでのプロセスのイメージをつかめるようにする。</p> <p>h 児童が行う（作成する）言語活動のモデルを教師が示すことで、児童の「あなりたい」「こうしたい」という願いや思いを引き出す。</p>	<p>k 児童によって解釈が分かれる発問をすることで、根拠や理由を考えることができるようにする。</p> <p>l 学習する内容や相手等について、児童が自ら決めたり選んだりする場を設けることで、積極性につなげる。 ・学級で何について話し合うか ・作成した新聞を誰に渡すか ・どの物語を友達に紹介するか</p>	<div style="border: 2px solid #f4a460; border-radius: 50%; padding: 20px; background-color: #fff9c4; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「・」「○」で示している内容は、あくまでも手立ての一例です。 記号に__が付いている手立ては、その具体例を提案しています。トップページ「手立ての具体例」からご覧ください。</p> </div>	
<p>g ○どのような言語活動を行いたいのか、児童に選択肢を与えて決定させる。 ○学習のゴールに近づく（課題解決）ために、どのようなことをできるようになるべきか考えさせる。 ○教師が提案した大まかな計画に対し、それぞれの活動が何時間必要かを考えさせる（次第に短くできるように意識付けを行う）。</p>				
		<p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。 （再掲←A一次）</p>	<p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。 （再掲←A一次）</p>	
<p>○教科書のモデルでは難しすぎる ⇒ 同系統の既習単元（前学年の教材等）で、よりシンプルなモデルを教師が作成する。教師によるモデルで学習した後、教科書のモデルで妥当性を確認する（スモールステップを踏む）。</p> <p>○教科書のモデルでは意欲が喚起しづらい ⇒ 児童にとって、より身近な話題、関心の高い内容を見極めた上で、教師がモデルを作成する。</p> <p>○児童がつまずく場面が予想できる ⇒ 予想されるつまずきを含む不十分な例を教師が作成する。良質なモデルと比較させることで、事前につまずきやすい場面に気付かせる。</p> <p>○気付かせるべきよさが、複数ある ⇒ よさごとに教師がモデルを作成する。モデルを比較することで、それぞれのよさに気付かせる。</p> <p>○既によさを習得している児童がいる ⇒ 習得している児童の話しぶり〔話・聞〕、文章〔書〕等をモデルとして示すことでよさに気付かせる。</p>				
	<p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。</p>	<p>m 児童が考えを整理したり、書き出したりする時間を確保することで、自分の考えをもてるようにする。</p>	<p>m' もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする。</p>	

	A (見通す)	B (自ら考える)	C (対話する)	D (振り返る)
二次 (深める)	<p>i 児童の学習履歴や単元の特徴に応じて学習過程に軽重を付けることで、指導事項の習得を促す。</p>	<p>m 児童が考えを整理したり、書き出したりする時間を確保することで、自分の考えをもてるようにする。 (再掲←B一次)</p>	<p>m' もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする。 (再掲←C一次)</p> <p>p 目的に応じて対話の形態を使い分けることで、考えの広がりや深まりを促す。</p>	<p>s キーワード(指導事項等)を用いて学習をまとめることで、学びを確かなものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「…すると<u>聞く人に分かりやすい説明</u>になる。」(低) 「文章を<u>推敲</u>するときには…に気を付ける。」(中) 「<u>情景描写</u>があることで、…のよさがある。」(高)
	<p>○全体交流…①自力で考える前段として、課題を解決するためにどのような方策を取るべきか、どのような手順を踏めばよいか等について、全体で協議しながら共通理解を図りたいとき。 ②個人、ペア、グループで出てきた多様な考えについて、全体で集約したいとき。</p> <p>○グループ…複数の答えが出るような発問や問いについて、一人一人に自分の考えを発言させたいとき。</p> <p>○ペア………近くの席の児童同士で、気構えることなく、短時間で簡便に考えを伝え合わせたいとき。</p>			
三次 (まとめる)	<p>j 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。</p> <p>(例:見出しを付ける際の「ポイント」を考える授業の前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(おおむね満足) 「『ポイント』を生かして見出しを付けることができる。」 ◎(十分満足) 「『ポイント』を生かして見出しを付け、さらに友達の見出しに対してよさを伝えることができる。」 	<p>n 板書やワークシートを工夫することで、考えを整理できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心情曲線 [読] ウェビング [書] <p>o 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。</p> <p>o' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。</p>	<p>p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。</p> <p>q ICT機器を用いることで、自分たちの対話を客観視できるようにする。[話・聞]</p> <ul style="list-style-type: none"> ICレコーダー(音声) タブレット(動画) <p>o 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。 (再掲←B二次)</p> <p>o' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。 (再掲←B二次)</p>	<p>j' 到達基準を基に学習を振り返らせることで、自分の学びを実感できるようにする。 (例:見出しを付ける際の「ポイント」を考える授業の後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(おおむね満足) 「『ポイント』を生かして、見る人の目を引き付ける見出しを付けることができたので、今日は○です。」 ◎(十分満足) 「今日は◎です。伝わりやすい見出しを付けることができました。また、友達が『ポイント』を生かして、会話文を使っていることに気付き、伝えることができました。」
				<p>r 互いのよさについて伝え合わせることで、学んだことを客観的に確認させるとともに、次の学習への意欲を喚起する。</p>
単元後	<p>w 単元で学んだことについて、日常生活の中で活用する場を設定することで、学びの習熟を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いで決めたバス旅行の決まりを基に、<u>実際に当日使用するバス旅行のしおりを作る</u>。(言語活動:しおり作り)[話・聞] お礼の手紙の書き方で学んだことを用いて、他教科等でお世話になった<u>地域の方へ手紙を書く</u>。[書] 「しかけ」のあるファンタジー作品の面白さを伝え合う学習の後、<u>同様の作品を学級文庫として用意する</u>。[読] これまで意味調べや言葉集めをした語句の中から、自分の気持ちに<u>最も適した感情表現を選ぶ</u>。[言] 			